

筑波学院大とモーハウス

筑波学院大学（大島慎子学長）とつくば市の授乳服メーカー・モーハウス（光畑由佳代表）は24日、地域で活躍する人材を育成するための連携協定を締結。つくば市吾妻の同大学地域デザインセンターで締結式を行った。



協定書を交わした筑波学院大学の大島慎子学長（右）とモーハウスの光畑由佳代表＝つくば市吾妻の筑波学院大学地域デザインセンター

APEC機に連携協定

学生がWebをデザイン

長期就業体験も

取り組みとしては、光畑代表が6月末にペルーで開催される「APEC女性と経済フォーラム」で、女性の活躍を発信する機会に合わせ、同大ビジネスデザインコースの4年生の学生2人が、モーハウスのグローバル対応のWebサイトのデザインを提案する。

今後は継続的な協働体制を整備し、社会の変化にも柔軟に対応できる持続可能な情報発信源として、提案、運用することを目指す。

また同大3年生を対象に2週間程度実施してきたモーハウスのインターンシップ（就業体験）を見直し、9月から3カ月の長期インターンシップを行う予定。具体的な企業のプロジェクトに参加することで、効果的なキャリア教育が実現できることを期待する。

締結式では、大島学長と光畑代表が協定書にサインし、交換した。記者会見で大島学長は「日本の社会は30年前と変わっていない。そのような中で光畑さんのように社長が社会を改革できる企業は学生の夢や生活にとって勉強になると強調。『本学は元々女子大ということもあり、女性の活躍を意欲し、アビール

したい。そういう理念のもとに連携を結んだ」と話した。光畑代表は「若い世代には子育てが当たり前にできることを伝えていきたい。また3カ月の長期インターンシップを通じて、学生にも私たちに刺激を受けることを期待したい」と述べた。

Webサイトのデザインを手がけた学生の久保田麻友さん（21）は、サイトのビジュアル面で、桃色の背景に親の愛情などを表現し、画面構成では直線と直線と実力を表現するといったところを注いだという。

「こちらの提案に対して、（モーハウスのスタッフから）修正が入るといった、やりとりを進めていく。連携するのは、地域社会や地域産業との連携による産業の創出、振興▽地域社会と連携した教育・研究▽科学技術、芸術・文化の振興▽相互の持つ人的、物的資産の交流推進及び活用▽新たな社会経済や地域社会づくり▽地域の生涯学習の推進▽その他、相互の連携・協力を資する事業」の7項目。

（大志万啓子）